

技術からの法律と経済・経営と社会のひとつの見方(2)

影山法律特許事務所
弁護士・弁理士 影山 光太郎

目次

2. 技術-技術の見方(続)

(2.9) 技術の発展の流れ

(2.10) 物体系・物質系の産業(製造業)、製品との関連

(2.11) 画期的な発明とその生まれる素地

(2.12) 「選択と集中」「薄く広く」、一極集中型・分散型

(2.13) 科学と技術と発明と特許(ノウハウ)と産業

3. 技術-脱炭素技術と再生可能エネルギー、原子力発電の問題

(3.1) 地球温暖化

(3.2) 各種の脱炭素技術

(3.3) 世界の CO₂ 排出量(2019)

(3.4) 電源構成と再生可能エネルギー

(3.5) 原子力発電の利用と小型モジュール原子炉

2. 技術-技術の見方(続)

前回は、技術について、その表れ方(外観・性質)から、物体系(例、機械系・建設系)と物質系(例、化学系)に分類することができ、そこから導出される6つの要因である①物体の組み合わせ、②形状、③構造、④物質の物理的性質、⑤化学的性質、⑥物性の変化と、技術の内容をなす(a)原理、(b)原理の利用、(c)利用のし方によって、二次元的に整理できることを述べた。

そして、この二次元的整理(平面)に垂直軸を立て、座標として技術評価、社会的効用・不効用をとって三次元的に考察すること、さらに時系列によって考察することを述べた。

技術の望ましい方向として、①循環系とすること、②再資源化を図ること、③省エネルギーを前提として、再生可能エネルギーの利用を図ること、④エントロピーの増大を抑えること、⑤微生物の解明・利用を図ること等を考えた。

そして、上記視点に、エアサイクル住宅の技術が合致することの分析を行った。

今回は、技術-技術の見方の続きと、技術-脱炭素技術と再生可能エネルギー、原子力発電の問題について述べる。

(2.9) 技術の発展の流れ

- (1) 物体系・物質系の外観・性質からの分類及び二次元的整理、三次元的考察・時系列による考察を踏まえ、イノベーション(技術革新)がなされ、優れた技術として発明が生まれ、ノウハウ(技術機密)のままとされる技術もある。

イノベーションについては、後に経営との関係で詳しく述べる。

- (2) 物体系・物質系の技術発展の流れは次の図のように表し得よう。

